KIC オープンカレッジ ニュース No.18

はじめての業務アプリはPower Appsで！

近年、エンジニアではない方でもアプリケーションが作れると注目を集めているローコード開発ツールですが、Microsoft 365にもそのツールがあることはご存知でしょうか。ローコードとは必要最小限のソースコード開発でソフトウェア・アプリ開発を行う手法です。さらなるDX化に向けて、社内専用の業務アプリの開発に挑戦してみませんか？今回はアプリ開発ができるMicrosoft 365のツール、Power Appsをご紹介いたします。

Excel・Word・PPT だけじゃない！

Microsoft 365 で アプリ開発ができるって知っていますか？

Microsoft 365 には、業務アプリの開発ができるローコードツールであるPower Appsがあります。通常、アプリ開発にはプログラミングの知識が必要ですが、Power Appsではドラッグアンドドロップの操作や既存のテンプレートを使うことで、初心者でもアプリを開発できることが特徴です。

こんなアプリが作れます！

社内問い合わせアプリ

メールや電話など問い合わせ方法がバラバラ ➡ 窓口をアプリに統一し一元管理を実現できる

備品貸出管理アプリ

貸出期間の変更など連絡漏れが発生 ➡ 外出先でも期間変更の申請が可能になり柔軟な管理が実現

Power Appsを使うためには

Microsoft 365にサインインをしてアプリが使えるか確認しましょう！標準機能に含まれていないライセンスの場合は、無料試用版を使うことができます。

＜確認手順＞

① Microsoft 365 のサイトにサインイン
② 画面左上の九つの点がある、「アプリ起動ツール」をクリック
③ 「その他のアプリ」をクリック
④ カテゴリ別の「開発者用ツール」にPower Appsがあります

アプリが見つからない場合は、無料試用版で試してみましょう

アプリ起動ツール

裏面ではアイデア出しのコツやセミナー についてご紹介！ ▸▸

どんな業務アプリを作ろう？アイデア出しのコツ

そもそもどんなアプリを作ろう…とアイデア出しで悩んでしまった方もいらっしゃいますよね。
開発前の段階で「何を作るのか」「誰のために作るのか」「どう使われるのか」を
明確にすることで、開発中の迷いや手戻りを減らして効率的に作ることができます。
まずは下記アイデアだしのコツを参考に、作りたいアプリを明確にしましょう！

業務の課題を探してみよう

	「紙でやっている業務」	「毎日やっている繰り返し業務」
業務例	紙の帳票・申請書・定期点検	日報・点検・打刻 顧客対応記録
業務課題	転記ミス・紛失・検索性の低さ	手間がかかる・属人化 記録のばらつき
アプリ	申請フォームアプリ 点検チェックリストアプリ	日報アプリ・勤怠アプリ 営業活動記録アプリ

いざ自分で作ろうとしても
途中で操作がわからなくなって
挫折してしまいそう・・・

まずは実際の操作画面が見られる
無料のセミナーにぜひご来場ください。
有償講座ではアプリ開発の体験も可能です。

Power Appsの操作方法と活用事例～アプリのデモ実施～

タイトル
DX推進！現場で使える社内アプリとデータの見える化
～Power Platform連携活用～

時間・場所
時間：60分
場所：協立情報コミュニティーソリューションスクール

詳細
SharePoint、Power Apps、Power BIを連携した「社内問合せ管理アプリ」のデモを通じて、現場で使えるアプリ開発の活用事例をご紹介します。

参加無料

お申込みはこちら↑

協立情報コミュニティー ソリューションスクール
〒104-0032 東京都中央区八丁堀2-23-1 エンパイヤビル2階
☎ 03-3551-2930 ✉ instruct@kccnet.co.jp
URL:https://www.it-school.jp/